

岩手県立大学宮古短期大学部 令和7年度の主要な取組実績

1 全学的な取組

分野	計画の概要	実績の概要
教育分野	<p>教学 I R センターシステムを活用した各部局へのデータ提供の充実、より詳細な学修成果の把握とデータの提供に向けた教学 I R センターシステムと事務管理システムの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教学 I R センターにおいて、アセスメントで活用する「授業に関する学生調査」、文部科学省の「全国学生調査」等を教学 I R センターシステムで実施し、データを提供した。 ・ 令和6年度にアセスメント等に必要データを迅速に提供できるよう構築した仕組みを活用し、学部等が必要とするデータや情報の提供を行った。 ・ 教学 I R センターシステムの「授業に関する学生調査」の機能と事務管理システムのシラバスの学修目標との連携を図り、これまでより詳細な学修成果の収集を可能とした。 ・ 質保証・向上システム及び教育改善を推進するため、教学 I R を活用した教学マネジメント体制の強化を図ることとし、教学 I R センターを改編して教学マネジメントセンターを設置することを決定した。
教育分野	<p>令和6年度に策定した「岩手県立大学における多様な性のあり方を尊重するためのガイドライン」に即した相談支援等の推進、本学における具体的な対応等についての検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手県立大学多様な性のあり方尊重委員会を開催し、取組状況について情報共有するとともに、全学的な支援体制の充実に向け、意見交換を実施した。 ・ 今後の取り組みの参考にするため、先進大学への訪問調査、全学生・全教職員を対象とするアンケート調査を実施した。 ・ SOGI に対する理解の促進と多様性の意識醸成を図るため、6月をプライド月間として設定し、ミニ講座を行ったほか、SOGI 研修会を開催した。
研究及び地域・国際貢献分野	<p>「岩手県立大学研究活動方針」に基づく、研究活動の環境や条件の整備に係る戦略策定と改善の推進</p>	<p>研究推進委員会において、協議・意見交換を重ね、各学部等からの意見を収集した上で、「研究環境の整備等に関する戦略」を策定した。</p>
研究及び地域・国際貢献分野	<p>企業学群構想の推進に向けた大学発スタートアップの創出とアントレプレナーシップの醸成、学生と企業との交流の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム」のファンド事業である「みちのくGAPファンド」に採択された課題について、起業支援アドバイザーによる伴走支援を行ったほか、来年度の採択に向けて新規案件5件の申請を行い、うち1件が採択された。
法人経営分野	<p>電子決裁・文書管理システムの試行導入</p>	<p>電子決裁・文書管理システムを試行導入し、運用課題を整理の上、令和8年度から試行運用及び本格導入するための環境を整備した。</p>

法人経営分野	広報戦略に基づく戦略的な情報発信を推進するための、令和5年度に策定したウェブアクセシビリティ方針に基づく公式ウェブサイトのリニューアルの実施	広報委員会やウェブサイトリニューアルワーキング等と連携し、プロジェクト計画やコンテンツ移行計画の確認、デザインやコンテンツ移行の検証を行った。
法人経営分野	ゼロ・カーボン化推進のための施設設備等の維持修繕及び更なる意識向上の取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> ゼロ・カーボン化推進室及び学生団体等と連携し、キックオフイベント「ゼロ・カーボン祭」を開催し、学生団体による脱炭素化の取組紹介及びワークショップによる学生等の意識の向上を図った。また、更なる意識向上の取組を進めるため、他大学等の取組事例を学ぶイベントへ参加し情報交換を行った。 脱炭素化に資する施設設備の導入に向け、事業所訪問による事例研究等を行った。

[その他の取組]

計画の概要	実績の概要
<p>令和7年度入学者選抜において、前年度までと選抜試験実施方式を見直した効果が認められ、学校推薦型選抜、一般選抜ともに、志願者は前年度より相当の増加を認める。また、令和8年度入学者選抜の一般選抜では、既に公表の科目変更となり、志願容易化への見直しは完了する。しかし、現在の主要マーケット域内の高校生は急速に減少しつつあるので、今後の学生確保のためには、マーケット拡大とそのため広報戦略の確立が急務の課題となっている。令和8年度は、広報部門の強化を予定しており、同部門を軸に効果が上がる広報活動を展開する。</p>	<p>令和7年度入学者選抜（令和6年度実施分）において効果が認められた選抜試験実施方式の改善については、同様の内容の継続に加え、令和7年度実施分の令和8年度入学者選抜では、一般選抜A（大学入学共通テスト利用型）で選抜関与度の低い小論文を試験科目から除外する見直しにより、志願容易化をより進展させ、大きな効果を認めた。</p> <p>最近3年間定員充足状況が厳しかった（入学定員100名で、令和5年度92名、令和6年度68名、令和7年度90名）ところ、令和8年度入学者は126名となって、入学定員また収容定員ともに充足することができた。</p> <p>学生募集関連の広報展開では、学生確保のためにマーケット拡大とそのため広報戦略の確立が急務の課題との認識から、令和8年度は、入学試験・広報委員会の内部で広報部門担当の委員を専従とし、同部門を軸に、高校訪問活動～オープンキャンパス運営～大学広報誌『Arch』記事作成～入学案内編集など教員担当部分広報において的確な活動を展開し、志願者増加に寄与した。</p>
<p>宮古短期大学部にあっては、岩手県太平洋沿岸部唯一の高等教育機関として、地域との連携が強く求められるところ、学生教育や研究に、「沿岸部唯一の～」にふさわしい連携が認められない。令和6年度に沿岸部12市町村を訪問して各市町村長から親しくご見解を戴き、課題を理解した。令和7年1月に三陸ジオパーク推進協議会と包括連携協定を締結し、学生</p>	<p>宮古短期大学部の、岩手県太平洋沿岸部（で全学年修業する）唯一の高等教育機関との立地条件を優位要素と捉え、同地域との連携強化を推進し、これも入学者数増加に効果が現れた。</p> <p>同地域の13市町村長と学部長が直接会談機会をもち、宮古短期大学部の教育内容や教員による研究内容など説明して理解を求めるとともに、各自</p>

教育には、『三陸創造科目群』（2科目）で連携体制を構築することができた。これらを足掛かりにしつつ、持続的連携となるよう、単なる立地場所としてでなく、沿岸部の重要な機関として認知いただける取り組みを、宮古短期大学部全体をあげて進める。

治体の広報誌に宮古短期大学部生涯学習講座の告知掲載ほか広報へのご協力を戴けることとなった。

三陸ジオパーク推進協議会との包括連携協定による『三陸創造科目群』2科目（〔岩手三陸学〕1年必修・〔総合三陸学〕2年選択）は、学生教育での効果とともに、学外への開放科目として宮古市内外の多数の皆様の受講があった。

これらにより、地域との持続的連携となるよう、単なる立地場所としてでなく、沿岸部の重要な機関としての認知が進んだもので、今後とも同様の取り組みを、宮古短期大学部全体で継続する。